

令和5年度神戸大学前期日程 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

国語

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。
なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、令和5年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

【出題の意図・評価ポイント】

一（現代文）

学力の三要素のうち「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価するために、長文の評論文の内容理解について記述式で解答する読解問題を出題した。

問一・問二・問三

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多角的に試す記述式問題。それぞれの傍線部の意味を正確に理解するには、何よりもまず語彙にかんする一定水準の知識が欠かせない。また、たんに傍線部の前後の二、三行だけを手がかりにするのではなく、より大きな文脈の論理の展開を丁寧にたどりながら、傍線部の意味内容をとらえる思考力と判断力も必要となる。そのうえで、解答に盛り込むべき内容を制限字数内で正確かつ簡潔な文章にまとめる技能、そしてそれをさらに説得力のある文章へと練り上げる表現力も求められる。いずれの設問も八〇字の制限字数内で解答をまとめることを求めており、それによって語彙力や思考力・表現力などを総合的に評価することを狙いとする。

問四

基本的には問一・問二・問三と同じ趣旨の設問だが、本文全体の論旨をふまえて一六〇字の制限字数内で解答をまとめることを求める点で、より高度な読解力を試すことが意図されている。四〇〇〇字を超える長文テキストを素材に、個々の論点を的確に押さえながら全体を貫く論理の筋道を正確に読み取るという、論理的な思考力がここでは何よりも求められる。しかも解答の制限字数もやや長いため、必要な論点をただ列挙するだけでは十分ではなく、それを論理的に構成し論述する文章構成力が必要となる。問一・問二・問三で求められていた以上に高度の「思考力・判断力・表現力」を総合的に判定することがこの設問の狙いであり、評価のポイントもそこにある。

問五

標準的な漢字の書き取りを課すことで、語彙にかんする「知識・技能」を試す問題。ただし、いずれの漢字も文脈を正確に理解する読解力がなければ書けない語彙であり、その意味で間接的に「思考力・判断力・表現力」を試す設問でもある。

二（古文）

問一 ①～④いずれも基本的で古典表記として多く用いられる言葉の知識を主に、文脈の意味が理解されているかについて確認した。

問二 「このこと」が何を指すのかについて、傍線部以前の内容全体からの的確に理解し、過不足なく要約出来ているかについて確認した。

問三 課題文全文を通して、筆者が得心した理由を的確に把握し、説明出来ているかについて確認した。

問四 a・b・c・dいずれも、基本的知識として文脈のなかでの的確な意味をなすための助動詞「べし」の適切な活用形を問うた。

問五 文学作品の内容に関する基本的な知識を確認した。

三（漢文）

問一

①②③ 漢文のなかの「字」「少」「都」の読みを正しく理解できているかを問うた。

問二

（ア）「見」という助字の用方を理解し、正しく読み下せるかどうかを問うた。

（イ）「無＋所＋動詞」の用法を理解し、正しく読み下せるかどうかを問うた。

問三 傍線部の文意を正しく理解した上で、的確な現代日本語に訳せているかを問うた。

問四 問題文全体の流れを正しく踏まえながら、的確な日本語で説明できるかを問うた。